



事業を軌道に乗せた絞り込みとは!?

壁はビジネスアイデアを思いついた時ではなく、それをカタチにしようとした時にやってくる。

今月お話を伺った、オリジナル保冷材メーカー「クロスハーツ」取締役社長 上野みなこさんはリスクをかけて7年前に創業、まさに人生をかけて、「かわいい保冷材」という新発想を広げるべく邁進してきました。スター・ブランドタイムズには2度目の登場(前回は5年前の34号)。創業時はアイデアをカタチにしてくれる工場探し、3年目までは販路開拓:無我夢中というよりもがむしゃらだったと語ってくれました。4年目に赤字がゼロ化、5年目から軌道に乗ってきた今だから話せる、あれやこれ。諦めないこと、続けること、利益を生むこと。上野さんのストーリーから起業家が学べることは少なくありません。

色んな形の保冷材があればいいのに…



1.開わる全ての人と気持ちを重ねながらお付き合いしたいという願いのこもった社名からデザインされたロゴ



2.甘いものが大好きな女性と子どもが喜びそうなロールケーキの保冷材



3.立体的な三角形の保冷材



4.キャラ弁などママの愛情いっぱいのお弁当箱には、かわいいクマの保冷材はいかが?



5.企業向けにオリジナル保冷材も手掛ける



7.毎年ギフトショーに出展している



8.WRAP YOURSELF TOURからカタチにした、ギフト商材。自社サイトで反応をテスト予定



9.福祉施設に作業を依頼しているので、シンプルなラッピングを考案

Company Profile 株式会社クロスハーツ

代表者
上野みなこ

HP
<http://www.cross-hearts.com/>

業務内容

保冷材雑貨の企画製造販売・卸事業、保冷材商品のOEM事業、保冷材広告事業

TEL
042-401-1867

所在地
東京都小金井市前原町4-12-21-406

工場が見つかって、今度は製品を作つて販売していく段階。単価を下げるためには注文が多くても一定量を生産する必要があるので、在庫の山ができる。専門機械化されているので自由な形は難しい上に、型を作るのに50万円はかかる。対して、浮き輪の縁(ふち)の溶着と同じように行うウェルダー加工であれば、どんな形のものでも作ることが可能。型を作るのも5万円程に抑えることができる。ということで、今度はこの加工ができる工場探し。浮き輪はビニールです、袋をつくる技術があるところなら何とかなるだろうと、ビニール工場に何百件と電話。ほとんど断られたんですが、その中で型屋さんを紹介してくれた人がいました。金型職人にお目にかかるといつたり、親戚がビニール屋をやつていて、液体を充填する機械がないから難しいだろうけど、そこから車で30分くらいだからとにかく連絡を取らなければなりません。誠実に対応し、信用を重ねて、今まで行つていただいたのですが、先方は突然のことですし、素人の私がお邪魔したので戸惑つたのか、考えるのは自分で、本当にがむしゃらでした。お弁当用にかわいい保冷材を売り方を変えてみましたが、やつてみて分かることがあります。金型職人にお目にかかるといつたり、親戚がビニール屋をやつていて、液体を充填する機械がないから難しいだろうけど、そこから車で30分くらいだからとにかく連絡を取らなければなりません。金型職人さんを怒鳴りつけたんですよ。『説のわからないやつを連れてきた!』って。そこで私が経緯をお話したらしぶしぶ協力していただけることになりました。信頼はすぐに得られるものではありません。誠実に対応し、信用を重ねて、今までずっとお付き合いできる良きパートナーとなっています

「ブランド力のある人=協力を得やすい人
お弁当を作るママ向けに絞り込んで営業

「商品を撮影していたカメラマンさんが、撮影中には『これ売れると思うよ』って言ってくれたんですね。何の根拠もないんですけど、その言葉がとても励みになりました。感性が同じ人は少なくとも必ずいる。数十人より、数百人なら会える確率は高まるはずですから。数年前までみんなに行き着けなかつたのに、実績がひとつずつ積み重なつた今は会えるまでの距離が短くなりました」と笑顔で答える上野さんに、何かを成し遂げようと一生懸命な人に宿るというカリスマを見た気がしました。

上野さんの思い描いたビジョンを実現させるためには、「かわいい」保冷材を作つてくれる工場を探すことが第一。触つて見られる「モノ」があつた方が、人はイメージしやすいうからです。金融業界にいた上野さんがどんな風に出会いを果たしたのか、伺いました。「烟台の業界ですから、知識は全くありませんでした。保冷材メーカーをホームページで調べては、電話をかけて体当たり訪問。その中でレクチャーやセミナーを受け、少しずつ保冷材について知つていきました。ほとんどの場合、保冷ジェルの入った細長い筒状の保冷材をパティーの時に添えて口コミされたりするのではないかと。広告やコミュニケーションツールとしての保冷材といいからうまく中に入らなくて無理矢理押し込んだんですね。そのとき、『色々な形の保冷材があればいいのに』と思つたんです。考えてみると、使用者の大半は女性なのに、『かわいい』要素がない。かわいい保冷材だったら、喜んで取つておかれたり、持ち寄りホームパーティの時に添えて口コミされたりするのではないかと。今まで無料が当たり前だった保冷材も、ケーキに添えるキャンドルのようにお客様がデザインを選んで代金を支払うようになつても良いではないかと。広告やコミュニケーションツールとしての保冷材といい、新しい用途が浮かびました」

「人に見えていないものを見る能力が新カテゴリー創造の始まり

ゼロからスタートした商品づくり

機械で切つて大量生産する、ヒートシール加工という製造方法がとられていること。これが、四角い保冷材がタダ同然で配られている理由。完全機械化されているので自由な形は難しい上に、型を作るのに50万円はかかる。対して、浮き輪の縁(ふち)の溶着と同じように行うウェルダー加工であれば、どんな形のものでも作ることが可能。型を作るのも5万円程に抑えることができる。ということで、今度はこの加工ができる工場探し。浮き輪はビニールです、袋をつくる技術があるところなら何とかなるだろうと、ビニール工場に何百件と電話。ほとんど断られたんですが、その中で型屋さんを紹介してくれた人がいました。金型職人にお目にかかるといつたり、親戚がビニール屋をやつていて、液体を充填する機械がないから難しいだろうけど、そこから車で30分くらいだからとにかく連絡を取らなければなりません。金型職人さんを怒鳴りつけたんですよ。『説のわからないやつを連れてきた!』って。そこで私が経緯をお話したらしぶしぶ協力していただけることになりました。信頼はすぐに得られるものではありません。誠実に対応し、信用を重ねて、今までずっとお付き合いできる良きパートナーとなっています